

8) 平成25年に特に注意する病害虫

北海道病害虫防除所、北海道立総合研究機構 各農業試験場

1. 試験目的

平成 24 年度に実施した調査および試験結果から、特に注意を要する病害虫について注意を喚起する。

2. 平成24年度にやや多～多発した病害虫

- (1)水 稲：紋枯病、ばか苗病
- (2)小 麦：雪腐病（秋まき小麦）
- (3)大 豆：マメシンクイガ
- (4)ばれいしょ：軟腐病、黒あし病
- (5)てんさい：褐斑病
- (6)ね ぎ：ネギアザミウマ
- (7)だいこん：軟腐病
- (8)はくさい：軟腐病

3. 平成25年度に特に注意を要する病害虫

(1) 水稲の種子伝染性病害

平成 22 年に保菌苗由来と考えられるいもち病が本田で極早期に初発した。平成 23 年には褐条病の発生が散見され、平成 24 年度は、ばか苗病が道内各地で発生するなど、近年、種子伝染性病害の発生が目立つ。種子伝染性病害防除の基本は、健全種子の使用と種子消毒である。

(2) 小豆のアズキゾウムシ(図1)

平成 23～24 年、道央・道南産の小豆の子実で、アズキゾウムシの成虫が混入および被害子実が確認された。本種による被害子実は、返品や信用低下による損害が極めて大きい。本種は、道内の屋外では越冬できないため、餌となる子実が一年を通して残らないよう子実の長期間の貯蔵を避け、倉庫内の清掃につとめる。

(3) 野菜類および花き類のオオタバコガ(図2)

広食性・長距離飛来性害虫であるオオタバコの被害が道南・道央地方を中心に野菜・花き類などで発生している。病害虫防除所等からフェロモントラップを活用して出される情報を参考にし、本種に対して効果の高い薬剤を散布する。

4. 新たに発生を認めた病害虫

○道南地域で発生した病害虫

- (1) てんさいの苗立枯病（病原の追加）
- (2) だいこんの腐敗病(新発生)
- (3) だいこんの白斑病(新発生)
- (4) にんじんの黒あざ病(新称)
- (5) はくさいの黄化モザイク病（新発生：図3）
- (6) こまつなのべと病（新発生）
- (7) ブロッコリー苗立枯病（新発生）
- (8) ほうれんそうの立枯病(新発生)
- (9) リーキの葉枯病(新発生：図4)
- (10) かんしょのエビガラスズメ（新寄主：図5）
- (11) かんしょのイモキバガ（新寄主）

○その他に地域で発生した病害虫

- (12) 水稲のネジロミズメイガ（新発生）
- (13) とうもろこしの褐色腐敗病（新称）
- (14) ばれいしょの腰折症状（新症状）
- (15) にんじんの苗立枯病(新発生)
- (16) ほうれんそうのナスハモグリバエ(新寄主)
- (17) トマトのウロコタマバエ(新称)
- (18) トマト(ミニトマト)のすすかび病
(新発生：図6)
- (19) かぼちゃのフザリウム果実腐敗病（新発生）
- (20) メロンの果実内腐敗病（新発生）
- (21) ダリアのポテトスピンドルチューバー
ウイロイド感染確認（新発生）
- (22) しろたえぎくの灰色かび病（新称）
- (23) かじいちごのヒラズハナアザミウマ
(新寄主)
- (24) かじいちごのヒメコガネ、マメコガネ
(新寄主)
- (25) おうとうのウメシロカイガラムシ(新寄主)
- (26) アロニアの灰星病（新称）

詳細については北海道病害虫防除所のホームページ <http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/index.html> でもご覧いただけます。



図1. アズキゾウムシによる被害子実



図4 リーキの葉枯病



図2. サエエンドウを加害するオオタバコガの幼虫



図5. かんしょ(サツマイモ)のエビガラスズメ



図3. はくさいの黄化モザイク病



図6. トマトのすすかび病(葉裏)